

平屋の街をつくる。



都賀南

6戸

鶯の森

5戸

八千代緑が丘

11戸

※2014年6月現在

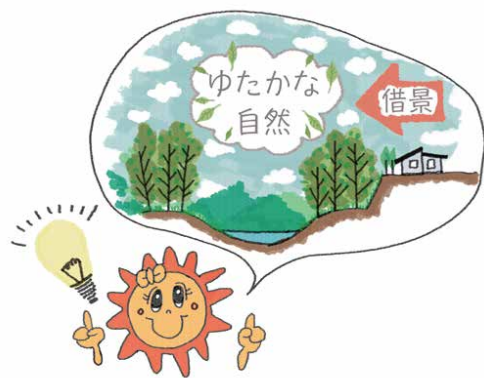
背景

『平屋の街！それも都会に？！』

「平屋って贅沢で憧れるよね」
「でも、広くないといけなから、高いでしょう？」
「都会暮らしも、諦めたくないし」
そう思われている方が多いと思います。



このように、
少しだけ心に余裕のある人たちが集まる
「平屋の街」が、増えていくことを期待し、
「平屋の街をつくる。」は、スタートしています。



『誰もが平屋を選べる理由』

そこで、拓匠開発が提案するのが、「平屋の街をつくる。」というシリーズです。
「街全体で借景を楽しめるロケーション」を条件に宅地を開発。
庭の代わりに借景すれば十分豊かな環境であるため、土地を有効に使う
平屋を設計でき、都会の狭い土地でも平屋を持つことが可能です！
広い土地を必要としない分、コストを抑えることができるのが、
誰もが平屋を選べる理由です。



『平屋の街という個性』

平屋の街では、隣に2階建てが建ってしまい、急に日当たりが悪くなってしまった...
ということもありません。住みやすさ、空間のゆたかさなど、
平屋の個性を大切に街づくりをしています。



Case Study-1 都賀南 6戸

千葉県千葉市若葉区

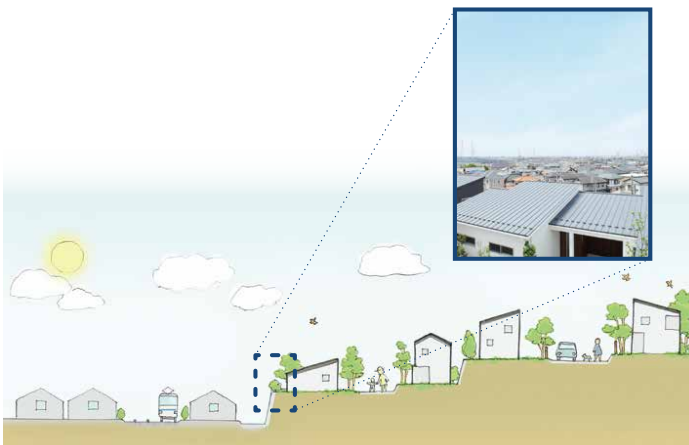
背景に豊かな森を背負う、都賀南全20区画。街全体が自然の恵みを
享受できるよう設計しており、森のそばで静かな暮らしをできる環境が整っています。



Case Study-2 鶯の森 5戸

千葉県千葉市中央区

富士山を望むひな壇の街、鶯の森。平屋街区には、どの部屋からも富士山を望む
プランを設計できる敷地を取っており、動線がシンプルで住みやすい
平屋ならではの住宅が並びます。



Case Study-3 八千代緑が丘 11戸

千葉県八千代市大和田新田

バラ好きには日本一といっても過言ではない京成バラ園の庭園を借景し、
奥行きある眺めが広がる八千代緑が丘。





「ツリーハウスの街」サイクル

ツリーハウスが増えるほど、
ツリーハウスの街が賑やかになるほど、
次の1000年の森へ持続していく。

森の手入れをする仲間を求めて、千年の森に取り入れたのが、「ツリーハウスをつくるために木を選び、森に間借り代を払う」という仕組み。購入した人が自分の手でツリーハウスをつくるということは、環境を整備するために、その周辺の森の手入れをする人が増えるということ。その仕組みを企業として拓匠開発がサポートし、送客・集客を促し、「ツリーハウスの街」として盛り上げる。森の仲間を増やし、森が管理され続ける状況をつくるサイクルです。

森の仲間が必要

運営会社の数人だけでは無理

現状 問題点

○千年の森

森の手入れをする仲間が必要

→ 運営会社では広大な森の手入れ／管理が行き届かない

→ 森に関わる人が少ない、もっと多くの人に関わってもらいたい

森の潤滑油

「拓匠開発」のロジック

「木」と「家」を扱う企業としての使命
住宅購入者の人生をより豊かにする

千年の森での感動体験



打開策 啓蒙（機会と誘導）

○拓匠開発

木造の住宅をつくる企業として

拠点があるからこそ、森を守っていく使命がある。



森の潤滑油 拓匠開発が森に関わる人として住宅購入者を継続的に誘致していく＆呼び込んでいく

ツリーハウスの街をつくる

4 持続可能な森へ

○千年の森

森に関わる人が増え、
人と共存する森として持続する

○拓匠開発

住宅購入者の生活の豊かさに貢献できる

この森の中で、
ツリーハウスの街が継続して成長し、
発展し続けることが
一番意義があるんだ！



森の手入れをしたい

森が管理される

3 整備の継続

○住宅購入者

よりよい滞在／体験をするために
ツリーハウス周辺の環境を整備

○拓匠開発

ツリーハウスの街を発展させていく
呼び込み活動ができるようになる

2 関係者の増加

○千年の森

ツリーハウスが増える

→ 森の手入れをしてくれる仲間が増える

○住宅購入者

口コミや実際にほかの知人を連れて行くなどの拡散

森の仲間
(森の手入れをする人)
が増える

継続して 循環させていく



2013年9月（千年の森）



「拓匠開発」が
「千年の森」で森の達人と出会う

2014年5月（千年の森）

森の職人が、ツリーハウスを完成させる
これからの活動の全ての基地となる、「拓匠開発」のツリーハウスを
森の職人が完成させ、モリニアルの住宅購入者を千年の森に招く準備が整いました！



2014年8月9日（千年の森）

森の達人と「千年の森勉強会」
森のくらしの初めに初めて訪れ、千年の森について学ぶ、森の手入れのことや、
森と自分が関わっていくこと、関わったそばから、森がどうなっていくかなどを学ぶ。



2014年8月9日-10日（千年の森）

森の達人とバードハウス・鹿の椅子づくり
都会に戻っても、千年の森を思い出してもらえようきっかけになるように、
千年の森で切った木やめした鹿の革を材料に、バードハウスや鹿の革をつかった三脚椅子をつくる。

忘れないでね！



2015年春（千年の森）

オリジナルツリーハウスづくりスタート！
住宅購入者が、約二年間を目途に
ツリーハウスをつくる

2013年11月（千年の森）



「千年の森」で
「拓匠開発」が森を学び、「森の職人」誕生
「千年の森」に共感した拓匠開発の社員全員が千年の森について学び、
森の達人から認定された「森の職人」の称号をいただく！
森の伝道師としての活動を許される存在に。

2014年7月13日（千歳・八千代市）

森の職人と都市に
「ツリーハウスの森」をつくる



拓匠開発が手がける分譲地の近隣の森で、住宅購入者家族と一緒に、
そうじ・整備・伐採・ツリーハウス簡易版（物置台）をつくる。

拓匠開発が住宅購入者を誘導

2014年8月9日-10日（千年の森）

森の達人とバードハウス・鹿の椅子づくり
都会に戻っても、千年の森を思い出してもらえようきっかけになるように、
千年の森で切った木やめした鹿の革を材料に、バードハウスや鹿の革をつかった三脚椅子をつくる。



予定

2014年10月4日（千年の森）

拓匠開発ツリーハウス
住宅購入者ウッドデッキ制作体験
（ツリーハウス制作キックオフ）

この活動を種火に、
ツリーハウスの街が
継続的に成長していく

ツリーハウスを持つまでの流れ

1 | 森から木を間借りする

間伐が必要になったカラマツの人工林から、「守る」木を1本
を選ぶ。選んだ木を森から間借りし、ツリーハウスをつくる。
同時に、森の手入れ・運営に、年会費を支払う。

2 | ツリーハウスをつくる

まずは、選んだ1本の木の周囲を開伐する。間伐をきっかけ
に新たな千年に向けて森が歩みはじめる。ツリーハウス作り
のベースとなる木材を使って、ツリーハウスを作り上げていく。

3 | ツリーハウスで生活する

出来上がったツリーハウスでの滞在を気持ちよく過ごすため
にはその都度、環境整備し続ける必要がある。周辺の森は、
ツリーハウスの持ち主が自ら考えて好きにしたいルール。



ツリーハウスがもたらすメリット

森とツリーハウスがつくる独特の関係

最大のメリットは、森の手入れをする仲間が増えるということ。
関わる人が増えることで、森林の保全が、持続可能な形となる。

都会では生まれにくいコミュニケーション

この森のツリーハウスで「生活を共にする」時間を重ねて成長
する家族の間のコミュニケーションは、生活を共にする時間が
少なく共通の趣味がない家族間のそれとは、まったく質が異な
る。また、ツリーハウスを持つ住民家族同士のコミュニケー
ションも、同じ価値観と経験で紡がれているためとても強く、
街の強みとなっている。



実際につくっている人がいると、
興味をもたれずすんだ！

ツリーハウスをつくる住宅購入者親子を見て、
千年の森を訪れた一般のお客様が、ツリーハウスを持ちたくなる！

千年の森自然学校

長野県大町市 / 森の運営

300ヘクタールの広大な森で、ツリーハウスと自然学校（対親子・対学生）を運営する
千年の森自然学校。30のツリーハウス、7つの民、20の歳、標高差は700m。豊かな
自然環境があり、土壌有機物やカモシカ約20頭をはじめとした森林生態系に恵まれた。
四季によっても表情が異なる豊かな森である。その考え方に共感した、ツリーハウスを持
つ家族や多くの自然学校への参加者が森を共に守り、つくり始めて約20年・・・家族が
成長していくのと同様に、歴史を重ねている。

拓匠開発

千歳市千歳市 / 不動産・宅地開発業

「森にある街＝モリニアル」「平層の街をつくる。」などの住宅シリーズを千歳市に展開
する。拓匠開発グループ。街づくりは、街並が出来たら終わりということではなく、更に成
長していくための維持管理として様々な仕組みが必要であるが、そこが森の管理との共
通項でもあり、拓匠開発は「千年の森」に深く共感している。また、お客様が住宅を持つ
ことを決意する人生の節目に立ち合えることを活かして、一年の関わりを提案すると共に、
継続的にできる森での暮らし、森での学びを共にすることを望んでいる。